

【感謝しよう!と決断する一年(2)】

聖書本文(暗唱聖句):テサロニケ人への手紙第一5章18節

“すべてのことについて、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。”

説教:鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! 2012年お正月やすみはいかがお過ごしでしたか。願わくは始まった2012年の間愛する兄弟姉妹の皆様のご家庭上に、職場の上にさらなる神様の豊かな御恵みと祝福が満ち溢れますように切にお祈り申し上げます。

今日感謝を強調しているこの本文の箇所はクリスチャンならばみんなに知られている聖句の一箇所だと思います。この箇所は“感謝への招待状”です。使徒パウロは信仰生活を始めて間もないテサロニケ教会の聖徒らが様々な苦しみと苦難の中でも信仰生活を守っている姿をみながら、彼らを励ますためにこの手紙を書きました。特に、彼は健康なクリスチャンの生活、正常なクリスチャンの生き方はどうあるべきなのかについて分かち合っています。そして、特に感謝の理由と感謝の内容と感謝の方法について語っています。

一つ目、感謝の理由: 神様の御心だからです。

“すべてのことについて、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。”

ここで“感謝しなさい”という単語が命令形に書かれたことに注目して下さい。“人を殺してはいけません。姦淫してはいけません。あなたの親を敬いなさい。隣人に偽りの証言をしてはいけません”のような戒めが命令形であるように、“すべてのことについて、感謝しなさい”も同じく神様からの命令である事についてじっくり考えたことがありますか。

命令は従わなければなりません。感謝しなさいと命令されたなら、感謝してもよし、しなくてもよしではなくかならず感謝しなければなりません。もう一度申し上げますと、パウロは感謝しなさいという命令をとおして我々に意志的従順(いしてきじゅうじゅん)を求めています。感謝する生き方こそ神様が我々に望んでおられることだからです。本当に感謝する生き方をしたいなら、肉体の感情に左右され従って生きてはいけません。感情のまま、感じたことのまま生きるなら、感謝できない要素がいくつでもたくさんあるのではありませんか。

中世のある修道士が弟子たちに教えながら自分の日記にこのような印象深い文章を書き残しました。[牢屋と修道院の違い]でした。“牢屋と修道院は環境的にとっても似ているかもしれない。するとなにが牢屋を地獄に、修道院を天国にさせるのか。牢屋は一日が不平、不満で始まる反面、我々の修道院の一日は感謝から始まるのだ。”これがまさに、牢屋を地獄に、修道院を天国にさせる理由だったのです。修道士の文章は続けてこう書かれています。“しかし、もし、修道院で生活している我々が感謝を失ってしまうとこの修道院も地獄になる。逆に、もし、牢屋で感謝を見つけることができるなら、牢屋こそ天国になることもありうる。”

いまみなさんの家庭に感謝がありますか。自分の夫、自分の妻、自分の子供、自分の家庭、自分の職場を自分の感謝の課題としてささげていますか。感謝のない人生は神様の民としての人生の姿ではないと言っても過言ではありません。

“すべてのことについて、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。”

これこそが、神様が2012年、まず、我々に、みなさんに期待していることです。

意識的に、信仰によって感謝することによってさらなる感謝が溢れる一年となりますよう切にお祈り申し上げます。

二つ目、感謝の内容: すべてのことについて感謝しなければなりません。

この世に生きているうちに、不愉快なことも経験したり、思いもよらない苦しみにあう場合もあります。今年もそのような時が来るかもしれません。しかし、聖書はそんな場合においても意識的感謝しなさいと言っています。

テサロニケ教会にパウロの手紙が届けられた頃、彼らは艱難のまっただなかに置かれていました。そういうわけで、この手紙には艱難や苦難と言う単語が特によく出ています。

“多くの苦難の中で”(第一テサロニケ1:6)、“苦しみに会い、はずかしめを受けたのですが”(2:2)、“あらゆる苦しみと艱難のうちにも”(3:7)などの聖句をとおしてテサロニケ教会が受けている苦しみがどのくらいだったのか大体分かることができます。それにもかかわらず、使徒パウロは彼らに手紙を書きながら、“みなさん、すべてのことについて、感謝してください。いまみなさんに置かれている苦難の環境においても感謝してください。”と言っています。

それがどうやってできますか。それはできます。すべてのことについて神様の御計画があるという事実、その神様の摂理(せつり)があることを心から信じ、受け入れることができるなら、我々はどんな状況に置かれても感謝することができます。

クリスチャンは人生を盲目的偶然として見てはいけません。そして、運命論的に流してしまう誘惑にも惑わされず、振り切らなければなりません。人生とは決して、運命でも、偶然でもありません。クリスチャンのライフは神様の御手に置かれています。すべては神様のご計画にあります。神様の摂理の中にあります。今日みなさんはこれを信じていますか。

使徒パウロには彼の一生涯を占めていた左右の銘がありました。ローマ人への手紙 8章28節の御言葉がそれです。

“神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。”

そうです！みなさん！受け入れられない今の状況、喜ぶことのできない今の苦しみ、到底感謝のできない今の痛みと傷にもかかわらず、これらすべてはついに神様が働かせて益としてくださると言う信仰！この信仰を握っている時こそ、我々はすべてのことについて感謝することができます。我々を囲んでいる状況がどうであれ我々は感謝をささげることができます。みなさんは苦しみにも神のご計画があるということ信じますか。苦難の中にも神様のご計画があります。クリスチャンのライフにおいて偶然はありません。運命もありません。我々に対する神様の主権と計画があるなら、すすめ一羽さえもその方の許しなしには落ちることがないことを信じますか(ぜひこの聖書の箇所を探し、読んで見て下さい。マタイ10:29-31、ルカ12:6-7)。我々の髪の毛さえも神様は御存知であることを信じますか。みなさんが受けている苦しみと逆境においても神様は神様のご計画を成し遂げてくださっておられることを信じて下さい。そして、それを心から信じている方であるなら、いま主の御前に立ってこのように言うてみて下さい。“神様！わがすべてのことに感謝します。”

(マタイ10:29-31:29 二羽の雀は一アサリオンで売っているでしょう。しかし、そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。 10:30 また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。:31 だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。／ルカ12:6-7 五羽の雀は二アサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れられてはいません。:7 それどころか、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。)

三つ目、感謝は方法です。(キリストにあって人生をみる)

“すべてのことについて、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。”日本語の聖書には明確に表されていませんが、ギリシャ語原語をみるとこの箇所では同じ前置詞(ぜんちし)が2回繰り返されています。英語だと、“in”に該当(がいとう)する前置詞がギリシャ語では(en)ですが、それが、“すべてのことについて”(in everything)という言葉と“キリスト・イエスにあって”(in Christ Jesus)という言葉の前で使われています。つまり、我々はキリスト・イエスにあってすべてを見る時、すべてのことについて感謝することができるということです。

愛するみなさん!人生をみる見方には二つがあります。一つは環境をとおして人生をみる見方です。しかし、これは決して健全な見方ではありません。我々を囲んでいる状況の中でのみ自分の人生を見てしまうと、我々はおどかしさを感じるしかありません。‘こんなにみじめに生きるべきなのか?’という息苦しさがありません。しかし、キリスト・イエスにあって人生を見る時は違えます。これが二つ目の見方です。イエスキリストにあって自分の人生を振り返って見たことがありますか。パウロが彼の手紙でよく使った表現がありますが、それは“キリスト・イエスにあって”です。彼がよくこれを繰り返した理由は、彼自身がキリスト・イエスにあって新しくされた存在だったからです。

パウロはある日、イエス様に出会ってから罪人である自分を神様がイエスキリストによって受け入れてくださったことを体験します。キリスト・イエスにあって彼は神様の愛を見いだします。キリスト・イエスにあって新しい人生を見つけます。キリスト・イエスにあって彼は人生の新しい目標を見つけます。

“だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ。すべてが新しくなりました。”(第二コリント人への手紙5章17節)

イエスキリストにあって神様は日々私たちを導いて下さいます。そして、イエスキリストにあってその方の愛を注いで下さいます。イエス様であってのみ私たちの祈りは日々答えられます。イエス様であってのみ私たちの人格はキリストに似たものとして変えられていきます。

愛するみなさん、環境は変わってきます。運命も変われます。我々の周りにいる人々も変わって行きます。しかし、このすべてのことが変わっても変わらないことがあります。それは“キリスト・イエスにあって”という状況です。イエス様であって神の愛は不変です。イエス様であって自分に向う神の慈しみは変わりありません。イエス様であっての神様の真実さはいつまでも変わらないことを我々は信じています。このようにすべての環境、すべての状況をキリスト・イエスにあって見つめていますか。これがまさに信仰の視覚ではないでしょうか。(ローマ人への手紙8章35、37-39節)

“すべてのことについて、感謝しなさい。”と詩を書いた脳性麻痺のあるクリスチャン詩人の詩をみなさんに紹介しながら今日の聖書のメッセージを終らせたいと思います。

感謝節時だけ感謝するあなたよ！すべての時に感謝しなさい。

主の受難週間の時だけ主の苦難を記憶するあなたよ。

主の十字架の贖いの死をいつも記憶しなさい。

危急の時だけ祈るあなたよ。絶えず祈りなさい。

嬉しい時だけ喜ぶあなたよ。

いつも主にあってよろこびなさい。

単純な詩かも知れませんが、またどれほど意味深い内容でしょうか。今日の御言葉を通して使徒パウロも語りたかったことはあの詩人と同じ内容です。“すべてのことについて、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。”今日の御言葉を通して我々は感謝すべき理由、いったい何を感謝すべきなのかについての感謝の内容、そして、最後にどうやって感謝することができるのか感謝の方法について教えられました。新しく迎えた今年2012年、今年中すべてのことに感謝することをこの時間、生きておられすべてを見ておられる神様の御前で決心し、感謝の命令に意志的に従順することにより今までもなかった感謝がさらに満ち溢れた年となるすべてのクリスチャンプレイズチャーチの神の家族となりますように主イエスキリストの尊い御名を通して切に祝福し祈ります。アーメン！